資料2

2025（令和７）年度
和歌山支部事業報告について

「もしも」と「いつも」に安心を。
協会けんぽ

全国健康保険協会和歌山支部

2025（令和７）年度和歌山支部ＫＰＩ結果

担当	事業計画		KPI	R6実績	R7目標	R7実績	支部達成度	協会全体の達成度	協会全体
業務	基盤的保険者機能関係	1	サービススタンダードの達成状況	100%	100%	100%	○	○	100%
		2	サービススタンダードの平均所要日数	4.71日	7日以内	4.79日	○	○	5.50日
		3	現金給付等の申請に係る窓口受付率	7.8%	7.8%以下	7.5%	○	○	4.0%
レセプト		4	協会のレセプト点検の査定率	0.142%	0.142%以上	0.110%	×	×	0.128%
		5	協会の再審査レセプト1件当たりの査定額	8,937円	8,937円以上	7,482円	×	○	10,017円
		6	返納金債権（診療報酬返還金不当を除く）の回収率	81.68%	81.68%以上	78.59%	×	×	63.70%
保健	戦略的保険者機能関係	7	生活習慣病予防健診受診率	53.3%	59.7%以上	55.2%	×	×	59.7%
		8	事業者健診データ取得率	16.8%	15.1%以上	12.6%	×	×	7.8%
		9	被扶養者の特定健診受診率	28.3%	28.5%以上	28.4%	×	×	29.4%
		10	被保険者の特定保健指導の実施率	17.1%	22.5%以上	18.3%	×	×	21.7%
		11	被扶養者の特定保健指導の実施率	18.9%	34.9%以上	30.2%	×	○	19.9%
		12	健診受診月から10か月以内に医療機関を受診した者の割合	34.9%	34.9%以上	35.0%	○	○	34.2%
企画総務		13	健康宣言事業所数	1,008事業所	1,040事業所以上	1,085事業所	○	○	115,407事業所
		14	全被保険者数に占める健保委員委嘱事業所の被保険者数の割合	65.1%	65.1%以上	65.8%	○	○	55.4%
		15	健康保険委員の委嘱事業所数	3,510件	3,511件以上	3,704件	○	○	346,949件
		16	ジェネリック医薬品使用割合	87.4%	87.4%以上	88.8%（2月時）	○	○	90.5%（2月時）、全支部80%以上
		17	バイオシミラーにかかる医療機関・関係機関訪問件数	－	8件	8件	○	○	全支部達成
		18	LINE公式アカウント配信件数（毎月2回）	－	24	24	○	○	全支部達成
	組織	19	一般競争入札に占める一者応札の割合	10.0%	15.0%以下	14.3%	○	○	14.1%

令和７年度和歌山支部事業計画に基づく主な取り組み

	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
基盤的保険者機能の盤石化	（１）健全な財政運営		■中長期的な視点による健全な財政運営に資するよう、支部評議会で説明を行い、保険料率に関する議論を行った。 ■今後、更に厳しさが増すことが予想される協会の保険財政について、加入者や事業主にご理解いただくため、協会決算や今後の見通しについて、各種広報媒体にて広報を行った。	■今後についても、支部評議会で丁寧な説明を行い、保険料率に関する議論を行っていく。 ■加入者や事業主に対し、協会の保険財政についてご理解いただくため、情報発信を行っていく。
	（２）　業務改革の実践と業務品質の向上			
	①	業務処理体制の強化と意識改革の徹底	■毎月職場討議を行い、情報の共有及び課題の整理を行った。 ■管理職が職員（契約職員を含む）と毎月1on1面談を行い、個人ごとの能力や課題を把握するとともに、職員の意識改革となるように指導、助言を行った。 ■7月、8月、10月、1月にジョブローテーションを実施し多能化を推進した。 ■業務処理体制や相談体制における課題の洗い出しを行い、改善を図った。	■コールセンター導入に伴う受電・業務処理体制の見直しを行う。 ■健康保険証とマイナンバーの一体化及び電子申請等の導入に即した事務処理体制の構築と促進を図る。 ■職場討議や1on1面談の実施を通じ、職員と管理職のコミュニケーション活性化とチーム運営の効率化を図る。
	②	サービス水準の向上	■サービススタンダード（全支部共通の受付から10営業日以内に振込までを完了させる給付金）について、日々の進捗管理を徹底し目標の100%を達成した。 ■申請者に可能な限り早期の給付金振り込みを行うため、日々の朝礼やミーティング等を通じて、サービススタンダードの経過日数を意識して処理を行うことにより、サービススタンダードの平均所要日数の目標を達成した。 ■お客様の利便性向上や負担軽減の観点から、すべての届書・申請書について、郵送提出が可能な旨をホームページや各種広報媒体を活用し発信した。また、電話相談対応時においても電子申請もしくは郵送による提出を推奨し、それら取り組みの成果もあり窓口受付率の目標を達成した。	■正確・迅速・丁寧な事務処理を行い、サービス水準の向上に取り組む。 ■引き続き、サービススタンダード100%の達成を目指す。 ■サービススタンダードの平均所要日数7日以内を維持する。（参考：令和7年度4.79日） ■手続きの相談時、お客様の利便性を意識した対応を行うとともに、ホームページの活用や電子申請による申請を案内することで、申請書類に係る窓口での受付率を対前年度以下とする。

	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
KPI　サービススタンダードの達成状況	100%	100%	100.0%	○
KPI　サービススタンダードの平均所要日数	4.71日	7日以内	4.79日	○
KPI　現金給付等の申請に係る窓口受付率	7.8%	7.8%以下	7.5%	○

	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
基盤的保険者機能の盤石化	③	現金給付等の適正化の推進	■不正請求が疑われる傷病手当金及び出産手当金の事後調査を実施し、不正請求の防止に努めた。 ■傷病手当金との併給調整について、障害年金等は月次で進捗管理を徹底し、労災休業補償給付は労働基準監督署へ照会を行うなど、給付適正化を推進した。 ■不適切な施術や不正請求疑いのある接骨院・整骨院に対し、面接確認委員会を開催のうえ面接確認を実施した。（1件実施） ■国保連と共同で不正請求の疑いのあった接骨院・整骨院に対して調査を行った。	■傷病手当金及び出産手当金の事後調査を実施し、不正請求の疑いがあれば、事業所調査の実施を含めた対応をとることによりその防止を図る。 ■傷病手当金の併給調整における進捗管理を徹底し適切に対応する。 ■多部位、頻回、過剰施術にあたる柔整療養費の患者照会を行い適正受診を推進する。 ■特に柔整療養費など不正が疑われる事案については厳格に対応することとし、また、関係団体（和歌山県国民健康保険団体連合会及び県内保険者）と共同で不正対策防止に向けて強化して取り組む。
	④	レセプト内容点検の精度向上	■点検員全員参加のミーティングで協議のうえ、点検効果の薄い項目を削除する等、月次でメンテナンスを実施し、システムによる点検の精度向上を図った。 ■他支部で査定実績が多い支部の点検マスタを活用し、効果的な点検に繋げた。 ■成績上位の点検員が、高点数レセプトを優先的に審査する期間を設定し、支部として最大限の効果を発揮するため点検体制の見直しを図った。 ■近隣支部と連携し、外部講師による研修会や勉強会を開催。高額注射薬・高額薬剤の査定等、最新の事例を共有し点検員のスキルアップに繋げた。 ■支払基金と対面協議を毎月行い、原審・査定事例の知見を共有。また、支部間差異がある事例については、支部間差異の解消に向けて、基金本部に働きかけを行った。	■全国の査定事例を分析し、和歌山で査定事例が少なく、他支部で査定事例が多いマスタを活用し、システムによる点検効果の向上を図る。 ■医科の点検員が1名減となるため、点検体制の見直しを図る。（※歯科専任の点検員が医科・歯科併任で点検を行う。） ■近隣支部のほか、他支部で開催される研修に参加する機会を確保し、点検員のスキルの底上げを図る。

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
協会のレセプト点検の査定率	0.142%	0.142%以上	0.110%	×
協会の再審査レセプト1件当たりの査定額	8,937円	8,937円以上	7,482円	×

	項　目	主な取り組み内容等	今後の課題と対策
基盤的保険者機能の盤石化	⑤ 債権管理・回収と返納金債権発生防止の強化	■催告フローに基づいて、催告を実施した。特に、高額債権については、早期接触を図り、保険者間調整を積極的に活用することにより、債務者の負担軽減と確実な回収に繋げた。 ■催告フローに基づき、2回催告を実施しても未納の債務者に対しては、弁護士名による催告を実施した。 ■電話催告を実施するとともに、連絡先がわからない債務者や文書催告で効果がない債務者に対しては、訪問催告を実施し回収に繋げた。 ■弁護士催告を実施後、未納の債務者に対しては、勤務先判明者を中心に法的手続き（支払督促、強制執行）を実施した。 ※令和7年度実績　支払督促申立： 5件　給与差押え： 1件 ■資格喪失等の遡及処理や傷病手当金と障害厚生年金等との併給調整について、手続き時に事業主や加入者に説明していただくよう日本年金機構に協力を依頼した。 （※令和7年8月に和歌山東年金事務所に訪問のうえ、協力を依頼）	■保険者間調整は有効な回収方法であるため、高額債権を中心に引き続き積極的に活用する。 ■弁護士名催告は効果が高いため、早期（2回目の催告）に活用する。※令和7年度は隔月だったが、令和8年度より毎月実施に変更。 ■弁護士催告実施後、費用対効果を踏まえ、勤務先判明者を中心に支払督促を実施し、勤務先判明者に対しては、速やかに差押えを行う。 ■傷病手当金と障害厚生年金等との差額調整は、高額な債権が多いため、早期に接触を図るとともに、年金手続き時の広報を強化（※日本年金機構への広報の協力依頼）して、早期回収に繋げる。

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
返納金債権（診療報酬返還金不当を除く）の回収率	81.68%	81.68%以上	78.59%	×

（３）ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進	■令和８年１月13日より、各種申請手続きの電子申請サービスを開始。開始にともない、各種広報媒体において事業主・加入者に対し広報を実施。 ■被扶養者資格の再確認について、マイナンバーを活用し確認対象者を絞り込む一方、扶養解除者は前年度より増えることとなり、効果的かつ効率的に実施することができた。	■電子申請利用率を上げるため、今後も事業主・加入者に対し、広く広報を実施するとともに、健康保険委員や関係団体に働きかけを実施する。 ■令和8年度の被扶養者資格の再確認について、令和7年度と同様の方法で実施予定。

≪令和６年度と令和７年度の被扶養者資格再確認結果≫　※令和７年度は２月末時点

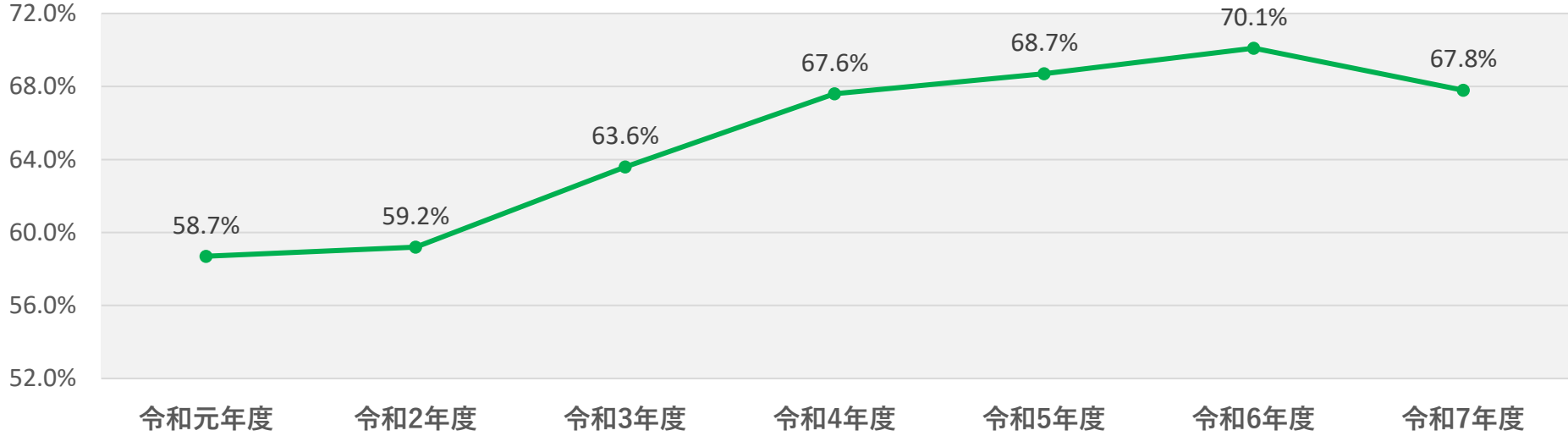
	令和６年度	令和７年度	令和６年度対比
対象事業所	134万事業所	36万事業所	▲98万事業所
対象者数	600万人	62万人	▲538万人
解除人数	6.3万人（対象者の１％）	13.8万人（対象者の22%）	＋7.5万人

令和７年度和歌山支部事業計画に基づく主な取り組み

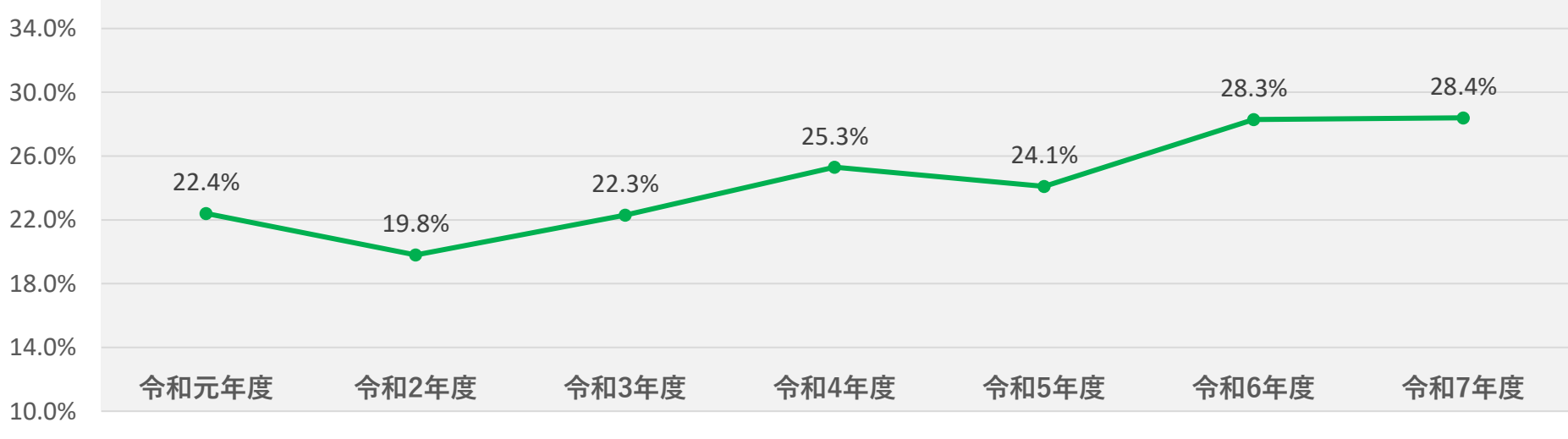
	項　目	主な取り組み内容等	今後の課題と対策
戦略的保険者機能の一層の発揮	（1）データ分析に基づく事業実施	■医療費・健診データ等を活用して医療費の地域差や健診結果リスク等について分析を行った。また、分析結果については支部ホームページに掲載し、広く周知を行った。 ■調査研究事業として、令和8年度の協会けんぽ調査研究フォーラム発表に向けて、「運動にかかる職場の健康づくりの取組に関する効果研究」について取り組んだ。	■統計分析者の育成。 ■分析結果に基づいた事業の実施。
	（２）　健康づくり		
	①　保健事業の一層の推進	■第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）の推進 <保健事業の充実・強化に向けた基盤整備> ■保健師等の資質向上のための全国研修の受講・ブロック別研修の実施	■第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）後期に向けた中間評価 ■コラボヘルス推進に向けた保健師等の資質向上
	②　特定健診実施率・事業者健診データ取得率等の向上	〈生活習慣病予防健診対策〉 ■健診機関不足地域や加入者の多い地域を中心に集団健診を設定 ■被保険者個人宅への勧奨DMの送付　（25,754件送付→1,894名受診） 〈事業者健診データ取得対策〉 ■事業者健診データ取得に関する業務を外部委託にて実施 （外部委託によるデータ取得件数　6,448件） 〈被扶養者の特定健診対策〉 ■協会主催集団健診の実施（エヒメ健診協会：38回　計4,449名） ■付加価値を付与した女性向け集団健診（ホテル健診）の実施 （再掲：上期2回、下期3回　計1,436名） ■協会特定健診と自治体がん検診との合同実施 （和歌山市・紀の川市 各3回、海南市・橋本市　各1回、みなべ町 1回、上富田町 2回、すさみ町 6回 計1,007名）　※海南市・橋本市　計152名は再掲（協会主催分）	〈生活習慣病予防健診対策〉 ■人間ドック健診委託機関の拡充 ■県外在住の未受診者対策 〈事業者健診データ取得対策〉 ■外部委託を含めた事業者健診データ取得の進捗管理の徹底 〈被扶養者の特定健診対策〉 ■令和9年度健診体系見直しに向けた対応 ■紀南地域を中心とした未受診者対策

	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
KPI　生活習慣病予防健診受診率	53.3%	59.7%	55.2%	×
KPI　事業者健診データ取得率	16.8%	15.1%	12.6%	×
KPI　被扶養者の特定健診受診率	28.3%	28.5%	28.4%	×

被保険者健診（生活習慣病予防健診＋事業者健診）受診率（令和元年度～令和7年度）



被扶養者特定健診受診率（令和元年度～令和7年度）



戦略的保険者機能の一層の発揮	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
	③	**特定保健指導の実施率及び質の向上**	■特定保健指導実施件数　被保険者：2,916件（前年度　2,669件） 被扶養者：　206件（前年度　135件） 〈被保険者の特定保健指導対策〉 ■特定保健指導外部委託の推進 健診機関・民間業者による保健指導実施：評価822件（前年度550件） 民間業者による保健指導はＩＣＴ遠隔面談・エバグリーン保険調剤薬局での特定保健指導実施 ■支部が初回面談を実施した者の継続支援を民間業者へ委託：評価2,027件（前年度1,840件） 〈被扶養者の特定保健指導対策〉 ■協会主催の集団健診で、健診当日の特定保健指導を実施できる会場を設定 （38会場 /（516名初回面談実施） ■「ヘルスアップ相談会」を開催（事業所での面談ができなかった方へ個人勧奨を実施） ベジチェック測定・特定保健指導等を実施 （5/11開催：12名参加）（8/3開催：5名参加）（9/14開催：9名参加）	■健診当日の特定保健指導実施機関の拡大をする。 ■影響度の高い事業所（業態・規模）への個別アプローチ。 ■事業所での保健指導実施が難しい人への遠隔面談や保険調剤薬局での保健指導などを案内し利用機会の拡大。

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
被保険者の特定保健指導の実施率	17.1%	22.5%	18.3%	×
被扶養者の特定保健指導の実施率	18.9%	34.9%	30.2%	×

④	**重症化予防対策の推進**	■高血圧・血糖高値・LDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ高値者で未受診者への文書勧奨・電話勧奨による受診勧奨を実施 二次勧奨：（文書：4,862件、電話：169件）→1047名受診（文書勧奨分） ■健診当日の受診勧奨：10機関・233件（66名が受診（予定含む）） ■生活習慣病予防健診結果送付時に高血圧予防リーフレットを同封 ■腎機能の疑いのある方への専門医への受診勧奨および保健指導の実施 （受診勧奨103件/保健指導0名）	■健診機関による当日受診勧奨の強化

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
健診受診月から10か月以内に医療機関を受診した者の割合	34.9%	34.9%以上	35.0%	○

戦略的保険者機能の一層の発揮	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
	⑤	コラボヘルスの推進	■健康宣言事業「わかやま健康づくりチャレンジ運動」を和歌山県と共同実施。 （新規登録事業所77社） ■「わかやま健康づくりチャレンジ運動」登録勧奨を実施。（文書・電話勧奨実施） ■登録事業所に対するサポートの実施。（健康機器の貸出：のべ59件、Inbody・出前講座申し込み：のべ51件） ■健康経営優良法人認定に対するフォローの実施 中小規模法人認定事業所：前年度121社→141社認定（協会加入事業所） ■オンラインによる健康経営セミナーの開催(9月)	■「わかやま健康づくりチャレンジ運動」登録事業所の拡大。 ■健康経営優良法人認定事業所の拡大。 ■健康宣言後のフォローアップの強化。

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
健康宣言事業所数	1,008事業所	1,040事業所以上	1,085事業所	○

（３）　医療費適正化

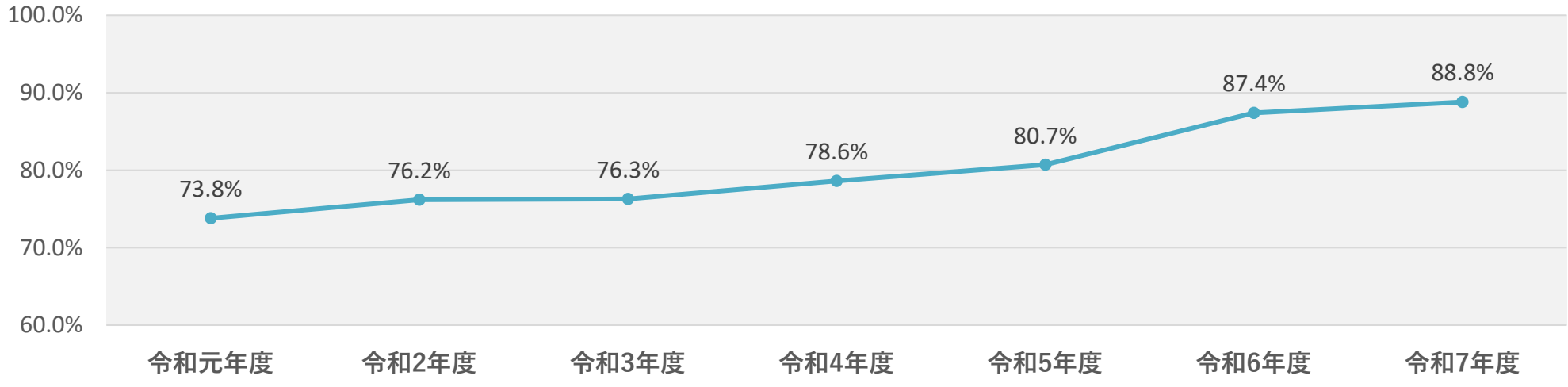
	①	医療資源の適正使用	ⅰ）ジェネリック医薬品の使用促進 ■県内の医療機関・薬局に対し、各機関のジェネリック医薬品使用状況を示した資料を送付し、ジェネリック医薬品の使用促進について働きかけを行った。 ■ジェネリック医薬品の使用促進についてWEB動画を活用した広報を実施。 ⅱ）バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進 ■バイオシミラーの使用状況を分析し、関係団体（都道府県、病院薬剤師会、薬剤師会）や医療機関を訪問し、使用促進について働きかけを実施した。 ⅲ）上手な医療のかかり方 ■時間外診療、かかりつけ医の啓発等、上手な医療のかかり方について、各種広報媒体にて啓発。	■バイオシミラーの使用促進について、令和8年度も引き続き関係機関への働きかけを行う。 ■令和8年度は、地域フォーミュラリの推進について関係機関への働きかけを行っていく。 ■加入者に対する効果的な広報の実施。 ■県・医療関係機関等との連携の推進。

KPI	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
ジェネリック医薬品使用割合	87.4%	87.4%以上	88.8%（2月時）	○
バイオシミラーにかかる医療機関・関係機関訪問件数	–	8件	8件	○

戦略的保険者機能の一層の発揮	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
	②	**地域の医療提供体制等へのデータを活用した意見発信**	■地域医療構想の実現に向けて協議が行われる「地域医療構想調整会議」において、県内７医療圏中、６医療圏に和歌山支部から委員を選出して参画し、意見発信を行った。	■令和８年度から始まる、新たな地域医療構想の策定における議論について、意見発信を行っていく。
	③	**インセンティブ制度の実施及び検証**	■インセンティブ制度における5つの評価項目について取り組み、令和6年度実績はインセンティブを受けられる順位（全国12位）となり、令和8年度保険料率に反映されることとなった。 ■HP、メルマガ等各種広報媒体で、和歌山支部のインセンティブ制度の実施結果を周知した。	■加入者、事業主にインセンティブ制度の仕組みや意義を理解していただくための広報の実施。
	（４）広報活動や「顔の見える地域ネットワーク」を通じた加入者等の理解促進		■広報計画に基づき、各種媒体（HP・メルマガ・県広報誌・地域生活情報誌等）を利用した広報を実施。　令和7年度からはLINE公式アカウントによる情報発信を行った。 ■健康保険委員の委嘱拡大のため、登録勧奨を実施。 　健康保険委員登録事業所数：前年度3,510件→3,704件 ■永年の活動や功績に対して感謝の意を表すため、健康保険委員表彰（厚生労働大臣表彰1名、理事長表彰2名、支部長表彰4名）を行った。	■健康保険委員委嘱数の増加。 ■健康保険委員活動の活性化。 ■加入者、事業主の協会けんぽ事業に対する理解を促進できる広報の実施。

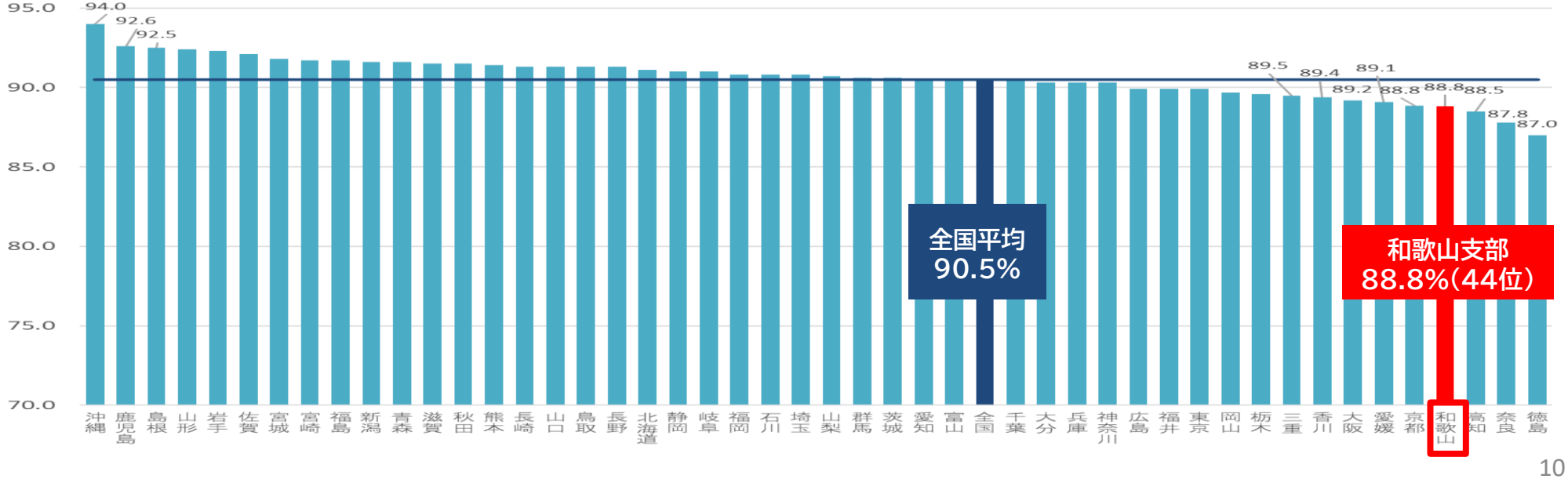
	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
KPI　全被保険者数に占める健保委員委嘱事業所の被保険者数の割合	65.1%	65.1%以上	65.8%	○
KPI　健康保険委員の委嘱事業所数	3,510件	3,511件以上	3,704件	○
KPI　LINE公式アカウント配信件数（毎月2回）	–	24	24	○

ジェネリック医薬品使用割合（和歌山支部）の推移



※各年度3月の数値。令和7年度は令和8年2月の数値。

協会けんぽ支部別ジェネリック医薬品使用割合（令和8年2月診療分）【数量ベース】



令和７年度和歌山支部事業計画に基づく主な取り組み

	項　目		主な取り組み内容等	今後の課題と対策
保険者機能の強化を支える組織・運営体制等の整備	（1）	人事制度の適正な運用	■人事評価制度の運用を通じて、実績や能力本位の人事評価を実施。	■今後も引き続き、実績や能力本位の人事評価を実施する。
	（2）	更なる保険者機能の発揮に向けた人材の育成	■日々の業務遂行を通じた人材育成（OJT ）を中心とし、それを補完する各種研修と自己啓発を組み合わせて人材育成に取り組んだ。	■引き続き、OJT、研修、自己啓発により、必要とされる知識を習得できる機会を提供する。
	（3）	支部業績評価の向上	■各グループが支部業績向上に向け各事業について積極的に取り組みを行った。 令和7年度業績評価36位（令和6年度15位）	■業績評価結果を検証し支部課題への対策を実施する。
	（4）	内部統制の強化	■個人情報保護、情報セキュリティ、コンプライアンス等、リスク管理にかかる研修の実施。 ■災害リスクに対し、安否確認システム、支部初動対応訓練及びビルにおける避難訓練の実施。 ■個人情報保護、情報セキュリティにおいて、管理職による毎月の端末チェック、自主点検及び全職員への研修の実施。	■引き続き、研修等を通じて、リスク管理にかかる意識を高めていくとともに、リスクの洗い出しやその対策を検討していく。 ■定期的な訓練及び職員向けの啓発を実施し、危機管理にかかる習熟度を維持していく。
	(5)	費用対効果を踏まえたコスト削減等	■随意契約にあって、一定額を超える案件については、調達審査委員会で調達内容、方法等を審議し、調達の適正化を図った。 ■一般競争入札案件7件のうち一者応札は1件であった。 ■その他少額案件についても、見積競争公告を実施し、複数者からの見積もりを徴取しコスト削減に努めた。	■十分な公告期間・実施期間の確保、業者への声かけ等、入札環境の整備。

KPI　一般競争入札に占める一者応札案件の割合	R6実績	R7目標	R7実績	達成度
	10.0%	15.0%以下	14.3%	○